

セントラル方式による無酢酸透析液（カーボスターP）の使用経験

（医）衆和会 桜町クリニック時津、桜町病院、桜町クリニック
○ 井上隆光、田中 健、高木伴幸、橋口純一郎、船越 哲

【目的】

当院では2010年6月より酢酸含有透析液から無酢酸透析液(以下カーボスター)へと変更した。今回、変更後の患者血清データ及びQOLの改善度を評価する。

【対象・方法】

当院外来維持透析患者62名（男性36名、女性26名）、平均年齢60.1歳、平均透析歴6.3年において、カーボスター変更前と後でのQOLをKDQOL-SF version1.3で測定し、また血清因子や臨床症状の変化を評価した。

【結果】

変更6ヶ月後の調査において、特に「全体的健康感」と「活力度」が有意に上昇していた。また患者血清因子に有害事象はなく、透析前の重炭酸濃度はカーボスター変更によりガイドライン値に達することができた。

【考案】

カーボスターへの変更により、QOLの向上が得られ、アシドーシスの改善が認められた。今後も治療効果を評価していきたい。